導入事例

セキュリティー
管理性

インテル® vPro® プラットフォーム搭載 dynabookで「最新に更新しているつもりだった…」をなくしていく、すでに800台を導入した「攻めのセキュリティー」とは？

インテル® vPro® プラットフォーム、Intune、ゼロトラストで、エンジニアが開発に集中できる環境を

目次

デスクトップPCに引けを取らない性能を見せたインテル® vPro® プラットフォーム搭載ノートブックPCへ移行 …… 1

エンジニアでも起きる「最新にアップデート済みのつもりだった…」生産性を高めるインテル® AMT …… 2

ゼロトラスト化とMicrosoft Intuneによるデバイス制御を推進 …… 2

「インテル® vPro® プラットフォーム」「InTune」「ゼロトラスト化」そして進める「攻めのセキュリティー」「重要なのは先手を打つこと」 …… 3

株式会社 TKC 栃木本社
システムエンジニアリングセンター
IT 投資企画部 部長 金森直樹氏

企業の健全な経営において欠かせないのが、会計処理です。財務、税務に関わる法律の変更や新たな制度の追加などは毎年のようにあって、常に最新の知見をもって当たらなければなりません。1つのミスが企業の信用にも影響してくることから慎重さも求められる、繊細で複雑かつ困難な業務といえます。

栃木で創業し、55年の歴史を持つ株式会社TKCは、主にそうした企業の会計処理などを担う全国の税理士・会計事務所、あるいは地方公共団体の業務を支援するシステム開発を担っている企業。多様な顧客に迅速にシステム、サービスを提供するため、2000人を超える全従業員のうち実に4割以上をエンジニアが占めると言います。

TKCは2020年、エンジニアらが使うPC約800台を、インテル® vPro® プラットフォーム搭載の「dynabook」に置き換えました。時には負荷の大きい処理を繰り返し何度もこなさなければいけないエンジニアにとっては、PCのパフォーマンスの高さは生産性に関わる最重要ポイントの1つ。一方で、企業としてはパフォーマンスだけでなくセキュリティーの高さや管理面の効率の良さも考える必要があります。そうした中で同社がインテル® vPro® プラットフォーム搭載PCを選んだのには、どんな狙いがあったのでしょうか。

デスクトップPCに引けを取らない性能を見せたインテル® vPro® プラットフォーム搭載ノートブックPCへ移行

TKCでは以前から、営業部門のように移動することの多い部署の従業員はノートブックPCを、エンジニアはデスクトップPCをそれぞれ利用していたと言います。エンジニアがデスクトップPCを選んでいたのは、ひとえにパフォーマンスの問題によるもの。

システム開発を行ううえでは大容量データを扱うことも多く、それをストレスなく処理してテストを繰り返すには、ストレージやメモリーの容量が十分にあり、プロセッサーが高いパフォーマンスを備えていることが必須でした。「ノートブックPCは遅いだろうという先入観もありました」と、同社で業務環境の整備などを担当する金森氏は言います。

しかしながら、デスクトップPCだけでは普段の業務において不都合に感じる場面も少なくなかったとのこと。例えば、エンジニア自身が会議などで資料を映し出したり、共有したりする必要があるときに、自分の座席に置いてあるデスクトップPCを会議室に持って行くわけにはいきません。かといって、持ち運んで使えるようにもう1台ノートブックPCを導入するのは、コストと管理の両面から合理的とは言えませんでした。

そこで同社ではメーカーに相談し、エンジニア向けにインテル® vPro® プラットフォーム搭載ノートブックPCを試験的にまずは数台だけ導入。コロナ禍に入ってテレワークの動きが強まったこともあって、デスクトップPCからノートブックPCへの全面移行を決断したそうです。世界的なプロセッサー不足に悩まされつつも、2020年から2021年にかけて導入したdynabookは800台という大規模なものになりました。

エンジニアでも起きる「最新にアップデート済みのつもりだった…」生産性を高めるインテル® AMT

懸念の 1 つだったノートブック PC のパフォーマンスについては、検証段階で dynabook が期待するパフォーマンスを十二分に発揮できることを確認。それまで使用していたインテル® Core™ i7 プロセッサー搭載デスクトップ PC と遜色のない処理速度を実現しているとエンジニア自身が納得できるものだったと言います。

本体ディスプレイは大きくないものの、外部モニターを接続してデスクトップを拡張するのが容易で、何より会議室などに持ち運びやすく使い勝手に優れるところが大きかったと金森氏は説明してくれました。

TKC がおよそ 800 台導入した
インテル® vPro® プラットフォーム搭載の「dynabook S73」。
13.3 インチ液晶と高い堅牢性を備えつつ使いやすさにこだわったスタンダード・モデル

テレワークが本格化するという業務環境の大きな変化についても、2018 年頃から東京オリンピックに向けて都が進めていた「2020TDM 推進プロジェクト」に取り組んでいたため、比較的スムーズに移行できたとのこと。

こうして PC 環境やネットワーク環境が整ってきた今、いよいよ「インテル® vPro® プラットフォームの価値が高まるステージにきました」と金森氏は力を込めて語ります。インテル® vPro® プラットフォームの価値とは、すなわち「インテル® AMT (インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー)」をはじめとするインテル® vPro® プラットフォームならではの機能を利用できることです。

金森氏が最も注目しているのが、インテル® AMT によって、リモートからでもエンジニアが利用するノートブック PC を容易に制御・管理できる点だと言います。ノートブック PC の電源がたとえオフであっても、遠隔からアクセスして電源をオンにしたり、OS を再起動したり、BIOS などハードウェアに近いレベルを含めた各種設定を施すなどの対処が可能になります。

こうした仕組みにより、在宅勤務でエンジニアそれぞれが別々の場所にいるような現在の状況でも、管理部門が PC のアップデートをしっかり行い、セキュリティーに対する備えを万全にできるのです。

技術に明るく、リテラシーが高いエンジニアであっても「その PC の専門家」ではない以上、「本人が最新にしているつもりでも、機種固有のファームウェアなど細かい更新パッチが抜け落ちていたりすることがあるのです」と金森氏は言います。

エンジニアが分かりにくい設定に時間をかけることなく、自身の業務に集中し、生産性高く開発を進めていけるという意味でも、管理側で PC を確実に最新の状態にできるのは大きなメリットと言えるでしょう。

ゼロトラスト化と Microsoft Intune によるデバイス制御を推進

エンジニアにとってパフォーマンスは妥協できない要素ですが、税理士事務所を通じ、財務という企業の根幹を支えるシステムを提供している TKC にとって、あらゆることに優先するのはセキュリティー性能になります。

TKC では数年前から社内システムの見直しを進めていて、「従来使っていたオンプレミスの環境から、クラウドを活用した環境へ移行している段階」にあるそうです。テレワークが広がったことで、クラウド利用の有効性はより高くなると見ている金森氏ですが、クラウド環境を安全に利用するには、より高いセキュリティーが求められます。そこで大きな役割を担ってくるのが「ゼロトラスト・モデル」とのこと。

ハードウェアからファームウェア、OS、そしてアプリケーションやネットワークに至るまで、あらゆるレイヤーにおける防御が可能になっていなければ実現できないゼロトラスト・モデルでは、まずそれらすべてのベースとなるハードウェアが高いセキュリティーを達成できていることが前提になります。

その点、TKC が導入した dynabook では、インテル® vPro® プラットフォームが持つ「インテル® ハードウェア・シールド」が利用可能。BIOS（UEFI）などをターゲットにした攻撃や、ランサムウェアなどの不正なプログラムのリスクを抑え、OS の安全な利用を実現できます。さらに、ハードウェア・レベルの仮想化によってユーザー認証などにも関わるデータを保護するとともに、セキュリティー・ソフトウェアのパフォーマンスを高めることも可能となります。

TKC では、強力なセキュリティー保護を担保するインテル® vPro® プラットフォーム搭載デバイスを基盤とし、統合的なモバイルデバイス管理（MDM）を可能にするクラウド型サービス「Microsoft Intune」も活用、それらの結果として、安心して使えるゼロトラスト環境を構築することができました。現在は、リモートから社内外に散在するノートブック PC の制御や、インストールしているアプリケーションやアップデートの管理を確実に行えるよう、さらに進んだ設定を進めているところだと言います。

「インテル ® vPro® プラットフォーム」「InTune」「ゼロトラスト化」そして進める「攻めのセキュリティー」「重要なのは先手を打つこと」

インテル ® vPro® プラットフォームが持つハードウェア・レベルのセキュリティー保護、Microsoft Intune による厳格な制御、それらを基盤としたゼロトラスト化。これら 3 つの要素を組み合わせることで、2022 年にはエンジニアそれぞれが自宅ネットワークや公衆 Wi-Fi を利用して社内システムにアクセスする場合でも、高い安全性を維持しながらテレワークできる環境が実現すると金森氏。

しかも TKC では、そのようなハードウェアやソフトウェアの機能だけに頼っているわけではないとのこと。金森氏は日々アンテナを高く張り、従業員が知っておくべき最新の業界事情やセキュリティー情報などさまざまな情報を集めて、社内のあらゆるチャネルで「先手を打って」発信していると言います。

いくら PC やネットワークの環境を万全にしても、それを扱うのは人間です。十分な知識を身に付けていなければ誤った使用方法で隙をつくってしまうこともあります。そこで、可能な限り早いタイミングで重要な情報を社内に広げることで、ハードウェア・ソフトウェアの機能とあわせ、より強固な「攻めのセキュリティー」につながる、と金森氏は語ります。それとともに、TKC のシステムが支える日本全国の企業の経営も、より強靭になっていくに違いないのでしょう。

インテル ® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。

すべての条件下で絶対的なセキュリティーを提供できるコンピューター・システム、製品、コンポーネントはありません。一部のインテル ® Core ™ プロセッサー・ファミリーで利用できる内蔵セキュリティー機能を使用するには、対応するハードウェアやソフトウェア、サービスの有効化、インターネットへの接続が必要となる場合があります。結果は、システム構成によって異なります。詳細については、各 PC メーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、http;//www.intel.co.jp/vPro を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

INTERNET Watch（2021 年 9 月 8 日 ）に掲載されたコンテンツから抜粋し、再構成したものです。

インテル株式会社
〒 100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1
https://www.intel.co.jp/

©2021 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。
2021 年 9 月

348489-001JA
JPN/2109/PDF/TMRB/CCG/NM